

令和3年8月定例会会議録

(令和3年8月18日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 8 月定例会会議録

- 【開催日】 令和3年8月18日（水）
- 【場所】 八代市千丁支所2階 庁議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
富田 壽人 教育委員
松永 松喜 教育委員
水田 千春 教育委員
奥村 留美子 教育委員
- 【出席職員】 中 勇 二 教育部長
橋口 幸雄 教育部次長
福本 桂三 教育部次長
松川 由美 教育部理事兼教育政策課長
高嶋 宏幸 学校教育課長
竹下 圭一郎 教育施設課長
田中 智樹 教育部理事兼生涯学習課長
入佐 正夫 教育サポートセンター所長
松村 哲治 博物館未来の森ミュージアム副館長
長船 征洋 教育政策課長補佐兼学校給食係長
松本 豊 教育政策課主幹兼学校管理係長
加賀 真一 学校教育課審議員
早瀬 泰志 学校教育課長補佐
寺本 直史 学校教育課指導主事兼指導係長
瀧川 尚樹 学校教育課指導主事
五十嵐 誠 教育施設課長補佐兼建築係長
米田 明弘 教育施設課設備係長
林田 安夫 生涯学習課長補佐兼管理係長
村上 修一 生涯学習課長補佐兼社会教育係長
宮尾 信 生涯学習課主幹兼生涯学習推進係長
山崎 撰 博物館未来の森ミュージアム副館長補佐兼学芸係長
久保 昌代 博物館未来の森ミュージアム主幹兼管理係長
- 【事務局】 草野 弥生 教育政策課教育政策係長
西村 妙子 教育政策課参事

【審議事項】

<協議案件>

- ①協議第3号 八代市EdTech(エドテック)推進基本方針(案)について

①協議第4号 教育に関する事務執行状況の点検・評価について

<報告案件>

①報告第18号 第3回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について

1. 開会 (午前9時28分 開会)

2. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

3. 議題

北岡教育長 本日の議題の進め方について、協議第4号 教育に関する事務執行状況の点検・評価については、時間を要するため、まず、協議第3号及び報告第18号の審議後、議事を一旦中止し、各課の連絡事項を行います。その後、協議第4号について協議を行いたい。

教育委員 全員異議なし

<協議第3号> 八代市E d T e c h (エドテック)推進基本方針 (案) について

早瀬学校教育課長 基本方針案の概要について、資料により説明
補佐 次代を担う子供たち一人一人の「生きる力」の育成という目標を達成するため、本市立の全ての学校においてI C Tを日常かつ効果的に活用した教育を着実に実現できるよう、その基本的な方向と取り組みを定める。また、目標を達成するため、次の4項目について重点的に取り組む。

(1) 学力向上の推進

(2) 不登校対策の充実

(3) 情報活用能力の育成

(4) E d T e c h推進に係る体制づくり・環境づくり

基本方針の作成に当たっては、推進会議での協議を行い、また、本市のI C T教育推進アドバイザーである小宮山理恵子さんから専門的な立場から助言をいただいている。

また、基本方針作成後は、何をいつまでにどう取り組んでいくかを具体的に示した「八代市E d T e c h推進基本計画」の策定に着手する予定である。

水田教育委員 不登校対策の充実とあるが、家と学校を結んで授業を受けら

れるなど具体的にどのようなことをされるのか。

早瀬学校教育課長
補佐

まずは不登校の児童生徒を出さないというのが大きなところである。ICTの活用については子供一人一人の学力に応じた学習環境の保障、その子に応じた学力の保障をしていくことで、勉強が分からない子供を作らないというところが大きな1つである。また、連携としては、学校に来れない生徒とタブレット端末を使い、チャットのような形で担任と生徒がやり取りをしている事例、電話連絡が取れない、会いに行っても会えないがタブレットならできるという子供もいるので、そういった活用を行っている。さらに、学校には行くが教室に入れない子供には、教室の授業を別室にリモートでつないで、同時に授業を受けられるという取組を行っている学校もある。今後はいろんな活用を検討しながら、それを広めながら不登校対策につなげたい。

奥村教育委員

不登校対策では、不登校を出さない、勉強が分からない子供が少なくなるようにと言われたが、その根源が確かな学力づくり、それが行える教室・授業だと思う。不登校になった子供の理由は、いろいろあるが、わからないが積み重なって、ちょっとしたことがきっかけで、教室に行きにくい、行けない、もう行かなくていいということになる子供もいると思う。完全解消は難しいがどうせ学校に行っても自分の居場所がないという子供を救うためには、(1) 学力向上の推進で、点数の向上ではなく、一人一人の子供に学ぶ力、考える力をつける。(1)の学力向上と(2)の不登校対策には、強い関連性がある。担任の先生がそこに一番気づいていると思う。授業づくりという観点で、ICTが活用できたらよい。教師間格差、学校間格差、地域格差などの格差で子供たちが困ることがないように、関連性を考えて、学校教育課で取り組んでいただけたらと思う。

今後策定される基本計画は、いつごろどのように策定されるのか。タイムスケジュールはどうなっているか。

早瀬学校教育課長
補佐

基本計画は本年度中に策定をする予定である。

奥村教育委員

専門的な助言をされたICT教育推進アドバイザーの先生は、何回くらい八代に来られているのか。

中教育部長

予算では、方針づくりに1回、8月22日の講演会に1回、

研究発表や推進校の視察で、計4回あった。現在はいろいろな相談をリモートでやっている。22日の講演会は、人を集めないが、本人は八代に來られて、ユーチューブで配信する。秋ごろにコロナの状況が回復していれば來られるかもしれない。

奥村教育委員 理論と教室の実践が有機的につながることを期待している。

富田教育委員 学力向上の推進の中に、学校での基礎的な学力をどうするかが組み込まれていないとICTだけに走ってしまう。またICTを活用するときに、学校独自のものが生まれてこない、子供たちにしっかり理解できる体制ではない。同じ教科でも先生によって教える中身が違ってくる。昭和44年ごろに現代化が起こったときに、個別指導の観念が入ったシンクロファックス、アナライザーが初めて導入された。シンクロファックスで15分の教材をつくるのに、3～4時間かかったが、その効果はそれほどなかった。そのような例もあるので、十分考えていく必要があると思う。

〈報告第18号〉 第3回八代市立幼稚園規模適正化等審議会について

加賀学校教育課 7月27日に開催した第3回八代市立幼稚園規模適正化等
審議員 審議会について会議録により説明
事務局から資料により、説明を行った後
(1) 保護者や社会のニーズに対応した幼稚園経営について
(2) 家庭支援の在り方について
意見交換を行った。

水田教育委員 長期休暇中の預かり保育の利用者数を教えてもらいたい。また、満3歳児保育は、ぜひ、八代市でも検討して実施してほしい。学校とのつながりとして、スムーズに小学校に進める仕組みとして支援学級のようなクラスもあると子供を持つ保護者に対していい仕組みになるのではと思った。

富田教育委員 先日特別支援を行っている方から、特別支援を要する子供たちが増えている状況で、小学校に入る前の段階で、幼稚園も特別支援を要する子供を指導できる先生を配置するなどしてやっていくべきではないかと話があった。

加賀学校教育課 夏の預かり保育の現状は、正確な数字をまだ把握していない
審議員 が、担当と視察に行ったときには、多いところで10名を超え

ていて、少ないところでは5名弱だった。第4回の審議会で報告後に、報告したいと思う。特別支援教育については、幼稚園保育支援員からも特性を持った子供たちの情報が上がっている。市としても意見をいただいて検討して考えていきたいと思う。

(議事一時中断)

4. 連絡事項
- | | |
|------------|--------------------------|
| 教育政策課 | 遊具塗装ボランティアについて、 |
| 学校教育課 | 2学期始業式について |
| 教育施設課 | 代陽幼稚園点検整備ボランティアについて |
| 生涯学習課 | 委嘱状交付について |
| 教育サポートセンター | くま川教室の開級式について、9月研修について |
| 博物館 | 夏季特別展覧会、インターンシップ受け入れについて |
| 事務局 | 9月定例会日程確認(9/22 14:00~) |

(議事再開)

〈協議第4号〉教育に関する事務執行状況の点検・評価について

松川教育政策課長 資料により、点検・評価実施方法等について説明

●博物館特別展覧会事業

松村博物館未来の森ミュージアム副館長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 数の達成ではなく、多彩な展示活動を通して市民の皆さんに歴史・文化への理解を深め、郷土への愛情を育むということが大きな目標だとすると、数少ない開催でも、市民の反響が大きかったということであれば、十分達成されていると思う。教育全体が豊かな心・確かな学力というつかみどころのないものに対し事業をして評価をしないといけないので、勢い、数だけで評価しては危ないと思う。ただし、少ない観覧者からは絶大な反響を得た、というその内容をアンケート分析などして、数に代わる成果評価を蓄積しておく。今後のデリケートな事業については、数とともに内容を積み重ねていただくとありがたい。市民の出発点である小学生も、今後、小学1年生から中

学3年生までの9年間で積み重ねていけば、最初は八代の歴史なんてと、思っているけれども最後には八代はこうだったのかとなると思う。数だけで評価できないという部分で、遠い目標設定と積み重ねを期待したいと思う。反響があった部分の反響がこれだけでは見えない。反響がこの指標評価になると思うので、反響の中身を分析して、自己評価に盛り込まれたら、数に代わるものになるのではと感じた。

●博物館施設整備事業

松村博物館未来の
森ミュージアム副
館長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 劣化度調査を東京の業者をお願いしてできなかったから県内業者に委託したとあるが、なぜ最初に東京だったのか。そして県内業者でも十分だったのか。今後の設計業務や工事も東京の業者をお願いしないと難しいのか。東京であれば、物資運搬、担当者の移動交通費が生じると思うがどうなっているのか。

松村博物館未来の
森ミュージアム副
館長 博物館を設計した設計事務所が大量のデータを持っている。大規模な改修になるため、現在ある資料だけでなく、設計した事務所のデータを使用する必要があり、別の業者に頼んだとしても、もとの設計事務所に話を聞くことが必要となる。今回は、修理箇所等を調査するには、もとの設計事務所に頼むことが安心であり、効率的であると考えたため、当初委託する予定だった。コロナ禍で他の業者に調査をお願いせざるを得なくなり、もとの設計事務所に相談が必要であれば、こちらを通して相談してもらおうという状況である。

奥村教育委員 他の業者に委託すると、状況がどうかと違う目が活かされるので、たくさんのお金を使って大変だと思うがよろしく願います。

富田教育委員 30年経って今回の調査で一度に8割改修しないといけないとのことだが、その間で、10年、15年経ったときに調査をして、改修が必要であるなどは、なかったのか。

松村博物館未来の
森ミュージアム副 いろいろな機器があり、不調があれば小規模な修理をした
り、機器の交換など大規模なものも行ったりしてきた。30年

館長 経って、総合的に確認をすると、大規模に行わないといけない時期に来ている。

奥村教育委員 八代市公共施設等総合管理計画では博物館は「維持保全」となっているが、博物館は今後も八代市の重要な機関としていくという意味なのか。また、「大規模改修」の言葉の意味合いを教えてほしい。

松村博物館未来の森ミュージアム副館長 公共施設等総合管理計画では、八代市の施設のほとんど全てを網羅してあり、施設によって、なくしたほうがいい、維持したほうがいい、建て替えたほうがいいと計画してある。その中で博物館は、建て替えではなく、このまま維持していく、その維持に伴う改修をしてほしいという意味である。

●特別支援教育相談事業

入佐教育サポートセンター所長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 来所・メール・訪問の3つの活動形態があるが、多い順に教えてほしい。また、2人体制になって、相談対応が密になり、相談の質も高まったと思う。令和元年度の実績479件に対して、令和2年度は1人当たりが700件、2人になってもさらに対応しやすいから件数が増えている。過重負担にならないように、2件/1日という対応策を考えておられる。この件数と件数に対する対応方法は、どのような知恵を発揮されているか。

入佐教育サポートセンター所長 訪問が9割以上で、数は少ないが来所もある。対応方法として記入しているが、メールはほとんどない。1人当たりの件数は、タイトなスケジュールになっている。適切かつ効果的な助言をしないとイケないので先生方の体調面を含めて1日3件となると案件もそれぞれ違うし、学校の場所も違うので、きついという状況も生まれると思う。所長としては、1日2件ぐらいが一番適正かなと判断している。重なることがあるなら、学校と連携をとり期日をずらすなど調整している。今本当に必要ということであれば、優先するなど臨機応変に対応している。

奥村教育委員 子供や保護者への相談というよりそれを日常支援・指導する先生へのアドバイスがとても大きな仕事かと思う。その点か

ら、子供・保護者・担任の先生となっているが、最終的にはそれらを囲む学校の組織体制へのアドバイスが必要と感じるときも多いのではと思う。アドバイザーの立場としては、なかなか学校へは、という部分もあると思うが、学校への支援・指導・アドバイスという機能としては、現在どうされているか。また、9割が訪問事業であれば、交通費は報酬の中に含まれているのか。

入佐教育サポートセンター所長 学校への指導、校内体制については、校内研修への講話の依頼があるし、学校に行きすぐ教室に行くのではなく、直接校長先生と会って話をし、指導後もまた校長先生に話をするなどしている。学校から校内体制へのお尋ねもあるし、校内への支援体制の改善に気づきがあれば伝えている、と報告を受けている。校長先生からも、アドバイスをもらって、変えていこうと思うということを知っているから、機能しているとみている。交通費は、報酬の中に含まれている。

水田教育委員 相談が増加傾向で、1人700件は厳しい状況ではないか。本年度は1,500件を予定されていて、1人で750件受けられる予定ということか。子供や保護者の命にも関わっていくような案件になると思うので、2人で大丈夫なのか、増員したほうがいいのではと感じる。幼稚園や保育園の幼いときから小学校につながる補助が必要ではないかと思う。事務も2人でされているのか。

入佐教育サポートセンター所長 増員は、今後どのくらいの件数になるかというのを見ながら次年度以降を考えていかないといけない。アドバイザーは、学校へ行って的確なアドバイスするという事に特化しているので、事務的なことをすることは無いが、記録を残すため日誌のような形で報告をしてもらうので、負担にならないように配慮をしているところである。

富田教育委員 アドバイザーが対応した700件について、それがどのようにデータとして残されていて、次にどう引き継がれていくかが必要である。成果指導の達成状況でなく、700件を分類してまとめていかないと、また次の人も同じ700件の対応をすることになる。まとめておくと指導がしやすいのではと思う。そこが足りないと思う。

入佐教育サポート どうようなことに対応したかは、日誌形式で具体的に残して

センター所長 いる。協議が必要なときは、アドバイザーから相談を受けて対応している。今後もしっかりやっていきたい。

奥村教育委員 相談活動があった後、綿密に記録をされている。相談を受けっ放し、しっ放しが一番危険なことである。アドバイザーに任せただけだから安心として、相談を続けていったら、この件数はまだ膨大なものになっていくと思う。この事業は、直接保護者や子供に対応することも大事だが、そこにどんな支援・指導をしたらいいか支援・指導者の機能づくり、立場づくりが非常に重要なことになっている。そういうことはまず校長先生に話をし、結果を話して、学校としてはどうしたらいいかがつかめたら、先生たちが学校として対応されると思う。教員をどう支援するか、学校をどう変えるか、今取り組んでおられると思うが、その辺の力を増していただけたらと思う。関係機関となっているスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの方たちが学校に入ると、まずは学校関係者と相談したいが、困っているクラスにすぐ通されるということもあるようだ。アドバイザーも含めて今後八代市の相談機能の中でシステムとしてルール化が必要かと思う。

●不登校児童生徒の適応指導事業

入佐教育サポートセンター所長 点検・評価票により事業内容等について説明

松永教育委員 火曜日と木曜日にスポーツ関係で総合体育館に来ていたが、4月に入って来た子供が3月に出るときは、全然違っていた。元気な声で挨拶をし、顔を上げて歩くような状態で、たくましく思ったこともある。施設の移転は、十分考えてもらい、早めをお願いしたいと思う。子供たちが多くなって来る可能性もある。奥まったところにある施設よりも堂々と子供たちが通えるような施設にしてほしい。

富田教育委員 ちょうどすぐ横にアパートができたが、子供たちに影響はないか。

入佐教育サポートセンター所長 懸念していたが、静かな環境が維持され、影響はないとみている。

富田教育委員 3年間通った後のくま川教室の子供にとって一番大事なの

は、将来自分の目標があるかないかだと思う。先輩たちの進路に関する情報が必要ではないか。くま川教室で頑張って、いろいろあったが、このように進んでいったと示してあげると、進路の方向性や考え方、勉強の仕方を具体的にやるのではないかと思う。ただ学校に行ったというだけでは足りないと思う。目標をどう持たせるか、一つの役目だと思う。

入佐教育サポートセンター所長 今回、通級生のOGがなぎなたで全国大会に出場したということやこういう先輩がいると紹介してもらっている。また、OGやOBが顔を出して、後輩に話をしてくれているということが、4月からの特徴である。とてもいいことだと思う。いい意味の循環が生まれ始めていると思っている。

奥村教育委員 以前の適応指導教室の調査では、学校へ行けない子供を受け入れるという所が多かったが、くま川教室の場合は、学校復帰を前面に出してデリケートな問題に取り組んでおられる。財政課に話をするときもそこが重大と思う。成果指標のところ、在席学級への登校人数、完全復帰人数で目標設定がそもそも少ないのではないかととらえられる。それなりの効果があったからで、2人の指導員増員は大きくて、人の力だととても感じた。今後は、目標設定を大きくしないといけないというのは、肩の荷が重いかもしれないが、その辺をしっかりと説明してもらいたい。

くま川教室の指導員は、会計年度任用職員で、会計年度任用職員になると一律に勤務時間が設定されて、ボーナスをもらう都合上、従来よりも勤務時間が短くなると言われていたと聞く。10人になったものの、もう少し長く関わってほしいとか教材研究をしたいという一人一人の指導員の活動時間への制約はないのか。

入佐教育サポートセンター所長 全くない。一人一人の時間は従来どおりで、増えた分だけ総数が削られることはない。人数が増えてお互いの意見交換やより良い接し方などを話す場が増えて、いい効果が出ていると思っている。

● 寄宿舍管理事業

松川教育部理事兼教育政策課長 点検・評価票により事業内容等について説明

松永教育委員 舎監、指導員、調理員、支援員など人材確保が難しいということだったが、今はいいのか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 代わりがいれば、引き継ぎたいという方々がほとんどである。支援員1人としているが、今年度特別支援の生徒が入ったからで、昨年度はいなかった。真冬など通勤が難しいことがあるので、極力、東陽や泉にお住まいの方をお願いしている。この辺りから毎日出向いてもらう方が見つからないのが実情である。

松永教育委員 以前、調理員が辞めるといえるときに、弁当を考えた。配達はないので、取りに行くことになるが、取りに行く人が危ないので、弁当にはしないほうが良いとなった。料理をする場合でも朝から調理員が来るのに、雨や雪の日などあり、安全な日ばかりではない。地元でできるだけ近くの方がいいが、なかなか人材がない。

奥村教育委員 調理師の免許は必要なのか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 必要である。

奥村教育委員 一年中お弁当では、かわいそうである。

松永教育委員 校長先生もだめだと言われていた。

松川教育部理事兼
教育政策課長 運営方法について、八代農業高校の泉分校の下宿をお願いすることも考えられないか検討してみないといけないと思っていたが、ことし、特別支援の子が入寮したため、3年間は、今の状態で寮を開設しておくことになる。また、下宿も中学校に上がったばかりの子では難しい。県内では、南小国と小国に寮があるが、人数も多いので、何とか運営されている。寮生の人数以上に世話役の人がたくさん必要な状況がどうにかならないかと思っているところである。

奥村教育委員 今後、寮生が2人から4人で推移するとあるが、どの地区に該当するのか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 樺木地区である。泉第八小を卒業した子供たちだけである。

松永教育委員 その他は子供がいない。今年1人生まれたとのことだが、今後出ていく可能性がある。

富田教育委員 樺木地区が一生懸命頑張っているの、少ない人数だがよろしく願います。

水田教育委員 寄宿舍の建物の維持管理、築年数は大丈夫なのか。人数からすると、支援の必要な子が卒業する頃に、新規に下宿をしてくれるところを探すとか、近くの旅館とか、というような考え方もできないか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 施設の維持管理も教育政策課の予算である。

北岡教育長 建物はとても古いというわけではない。2棟あったものを1棟にしてある。

松永教育委員 合併当時建て替え中に火災に遭い、その後きれいになった

奥村教育委員 小学校を卒業したばかりの子供たちが、寮ならこれだけの大人に見守られているが、下宿となると、自分たちだけになってしまう。

北岡教育長 下宿をさせてくれるところが果たしてあるのかどうか。

松永教育委員 ないと思う。小学校を卒業したばかりの子供たちの世話をするとすると親以上に大変である。支援を要する子供の親も寮を経験していて、内容を全部わかっているから、預けられる。その当時は寮生が多く、200人ぐらいいた。今のようにきれいではなく、8人部屋だった。今は設備も整っている。

●奨学資金貸付事業

松川教育部理事兼
教育政策課長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 少ないようで学生時代にとっては、とても貴重なお金だと思う。今後も活用されたらいいと思う。廃止も検討とのことだが、県内の他の市で奨学資金制度を行っているところがあるか。また、滞納者に法的措置を行うとのことだが、返さないこ

とについて、貸し付けのときに、説明会をするなど、どの程度話をして約束ができているのかをお尋ねしたい。

松川教育部理事兼
教育政策課長 宇土市以外は、貸付や給付を実施しているようだ。金額は、それぞれで違う。

北岡教育長 説明については、貸し付けるときに保証人を立てているので、借りていることは、わかっていると思う。ただ問題は、学生本人が借りているのだが、保護者が申し込みを行い、本人が借りたお金だという意識が足りないということもあるかも知れない。返すときも、保護者が返すところもあると思うが、そうでなければ本人に請求することになる。

奥村教育委員 連帯保証人に返してもらおうということもないのか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 今のところはそこまではしていない。返されていないということ連絡することはあるが、連帯保証人に納付書や催告書を送ることはない。本人宛てだけである。

北岡教育長 通常の貸し付けであれば、連帯保証人にすぐ請求が行くと思うが、今まで、それは行っていない。

松川教育部理事兼
教育政策課長 保護者や別世帯の方で2人保証人を立ててもらっている。今は、親戚付き合いなどが希薄になって、お願いできる人がいないとのことで、保証人が1人でも申請できることにしている。

奥村教育委員 この事業と中身は、何年ぐらい経っているのか。新しい時代にあったものなのかと話を聞いていて思ったが。

松川教育部理事兼
教育政策課長 貸す額を増やしたり、返し方を簡略化したりしているが、貸す時期が6月なので、お金が必要な時期より少し遅いというのがある。また、今は給付型になっていることが多いと思う。時期を変更するなどを考えてみる必要がある。

北岡教育長 市の奨学金は他の奨学資金を借りられなかった場合を補完するような意味合いがあるので、他のところを借りていれば八代市の奨学金を借りるということとはできない。もっと金額が多いところ、有利なものがあればそちらを利用されているということもある。大学そのものが優秀な生徒に対して、奨学金制度を持っているところもある。

松川教育部理事兼
教育政策課長 　　他の奨学資金を借りられない方の最後の砦、セーフティネットとしての位置付けでいくのか、できるだけ貸してあげたいという形で事業を行っていくのかということもある。

富田教育委員 　　高等学校の教育支援が大きいと思う。私立でも公立でも授業料がほとんど要らなくなったことも大きいと思う。

奥村教育委員 　　借りた以上は返す、という気持ちだと思う。

松永教育委員 　　携帯料金などであれば、利用を止められてしまうため払うだろう。

富田教育委員 　　残しておかないといけないと思う。

●学校通学関係事業

松川教育部理事兼
教育政策課長 　　点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 　　バスの買いかえや増便など着々とされている。遠隔地の子供たちが安全安心な通学ができればいいと思う。福岡で通園バスに取り残された子供の事件があったが、スクールバス運行の際には、乗降確認や乗車中の子供たちの安全確保は、運転手さんの職務になるのか。

松川教育部理事兼
教育政策課長 　　各学校にバス主任の担当の先生がいて、学校で子供たちには指導してもらっている。いくつも便があるので、先生が乗車されない便については、運転手が行うこととなる。運転手の毎月の日誌では、乗降時の注意点など指導したという内容の記載がある。ベテランの運転手が多く、先生並みに指導していると思う。

松本教育政策課主
幹兼学校管理係長 　　支援学校の便には、運転手とは別に介助者が乗って、2名体制で運行している。

松川教育部理事兼
教育政策課長 　　1学期は、先生たちが自主的に乗ってくださっている学校もある。

水田教育委員 　　豪雨が続いて、山道を通るスクールバスを心配していた。川沿いの道が崩れたりしているので、そのような場合の運行はど

うされているか。

北岡教育長 そのときどきの状況によって違うが、土砂崩れが考えられるとき、雪の場合もだが、学校のほうから遅延登校にするなど連絡がすぐにある。道路の状況が分かっている運転手にも連絡が早く入り、状況によって学校には対応してもらっている。

松川教育部理事兼
教育政策課長 学校で対応を考えられるが、地域の方からも通れなくなっているなど道路の情報が学校に入ってきているところもある。

水田教育委員 そのような情報は、一般的にはわからないので、どうなっているのかと思った。

松川教育部理事兼
教育政策課長 今は、大雨も続いているので、夏休み明けのために事前に試走などしてもらおう。

●アレルギー対応食提供事業

松川教育部理事兼
教育政策課長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 アレルギー給食対応のための経費、消耗品や対応食用容器とあるが、そのために別な食材を用意したということがあるのか。その時の経費はどうなっているか。また、以前学校にいたときに、ヒヤリハットを経験したことがあった。アレルギーの子供と一緒に食べている別の子供が食べてはいけないのではないかと気づいたため、大丈夫だった。対象者が少ないだけに、その学級やその子だけにとということがあると思う。全体指導及び教育活動を通じて指導を行ったとあるが、そこがとても大事じゃないかと思った。

松川教育部理事兼
教育政策課長 アレルギーの度合いがバラバラで、それぞれに対応が必要なので、提供しない、代替食を家から持って来てもらう、提供できる範囲で容器を別に準備し、対応食を学校に配送するなどしている。その分の経費は、他の子供と同額の給食費で、別に加算するなどはない。牛乳のアレルギー子供については、牛乳代は取っていない。

富田教育委員 場長をしていたことがある。包丁の欠け、袋の切片、破片などが混入することに十分注意しないといけない。また、アレルギー

ギー対応の給食が始まった当時、個人的に誰が作るのか、どのように容器を持ってくるかなど多くの問題があった。現在こうしてスムーズに行われているのはいいことだと思う。頑張ってもらいたい。

奥村教育委員 アレルギー食対応の段階が5段階あると思うが、八代市の対応段階は、どのくらいか。

長船教育政策課長 5段階で行っているが、施設によって、対応できる段階が違
補佐兼学校給食係 っている。なるべく全部の施設でレベル5の対応ができるよう
長 にとやっている。

松永教育委員 八代市は、アレルギー対応は県下でも一番進んでいる。栄養
士の先生が、とても積極的で、学校給食研究部会が非常に動い
ていただいて、各調理室、調理場で、対応がここまでできるか
らここまでアレルギー対応をしようと自分たちで当時決められ
た。5段階はできるが、これ以上するためには、同じ場所では
調理できない関係で部屋が必要になってくるので、時間を要
する。かなり進んでいて、頑張っているのだから、5年遡って平均
を出されても、2、3人増えても狂うことはない。それだけ努力
しておられるということは、知ってほしい。

長船教育政策課長 52ページにわたる手引きがあつて、研究部会で手直し、見
補佐兼学校給食係 直しをしながら、現場で実行しているのだから、支障なくでき
長 ている。

〈休憩〉

議事再開（午後1時00分）

●青少年体験活動事業

田中教育部理事兼 点検・評価票により事業内容等について説明
生涯学習課長

奥村教育委員 コロナ禍でも開催可能な代替事業等について、現在具体的に
何か検討されているか。また、コロナ対策関連消耗品は、体温
計、マスクの他にはどんなものがあったのか。

田中教育部理事兼 今年度は、夏休みの野外活動等については、宿泊ができない
生涯学習課長 ため、日帰りとして回数を増やし、人数を制限しながら、2日

に分けて開催する。今まで利用していた青少年自然の家が、野外活動は受け入れるが、キャンプや野外炊飯はできないという規制があったので、今回は東陽町の施設を会場にして開催する予定である。夏休みの陶芸教室も通常は30人だが、20人に制限して開催した。申し込みも多く、選考に苦慮した。今後もこのような形で内容を考えながら企画していこうと思う。

宮尾生涯学習課
主幹兼生涯学
習推進係長

消耗品については、手指の消毒液、机等の消毒関係である。

田中教育部理事兼
生涯学習課長

参加申込書と一緒に問診表を持ってきてもらい、当日の体温チェックも行っている。

富田教育委員

坂本町中谷の木々子地区の七夕綱の方が、高齢化し、継承できるか心配されている。くま川教室は、毎年七夕飾りを作っていた。こういった活動に取り入れてもらえれば、地元の方も喜んでもらえるのではないかな。

宮尾生涯学習課
主幹兼生涯学
習推進係長

中谷地区では、親子体験事業で毎年12月にミニ門松づくりなどを行っている。七夕綱はまだやっていない。ことしは、地元の方と話をしながらできればと思う。

●学校・家庭・地域の連携協力推進事業

田中教育部理事兼
生涯学習課長

点検・評価票により事業内容等について説明

水田教育委員

放課後子供教室は、宿題補助の面で、各学校、特に低学年で実施していただくと、学習の底上げ、学力の底上げになると思う。その日に学んだことをプロの元先生たちに教えてもらえることはすごく価値があることで保護者も助かる。拡充してもらえないかな。

村上生涯学習課
長補佐兼社会
教育係長

放課後子供教室は、学校・家庭からのニーズの問題がある。家庭のニーズは、どちらかというと児童クラブのほうである。放課後子供教室は長くて60分程度で、それが終わると子供たちは帰るが親の帰宅時間はもっと遅い。子育て世代にとってのニーズは児童クラブのほうが高い。もう一つ大きな問題点は、ボランティアの確保である。ボランティアの確保ができずに中

止を決めた小学校もある。小学校からの声も、ニーズは児童クラブである。市が率先して、全校に広げていくということはない。逆に先生方の働き方改革として、地域学校協働活動に重点的に力を入れていく。

奥村教育委員

いろいろな事業があると思う。その事業で、どこがカバーされるのかということをもっと知ってもらう必要がある。例えば、これは、生涯学習課だが、学校教育課の事業でコミュニティスクールがある。コミュニティスクールと地域学校協働活動のメンバーは、ほぼ同じ人たちが多く、その中で今後本当に子供たちのために、教職員の働き方改革のために、さらに、地域と学校の連携融合という3つのポイントを充実させていくためには、それぞれの事業の特性を踏まえながら、せっかくなら活かして盛り上がっていったらいいのかなと思う。知らないままのことがあったり、一方では報償費で、一方ではボランティアのまま、というのがあって、活用する人、無償で足を運んでいる人にとっては、やらないといけないと思っても疑問に思うところがたくさんあって、生涯学習課と学校教育課で、それを解消できたらと昔から思っていた。地域未来塾については、かつて塾や家庭教師の獲得が難しい地域で、しかも受験を備えた中学校を中心にとということだった。以前、現職中活用したいと言ったが今は対象にしてはいないと言われた。この事業にしても補助金制度で、国や県の補助金に対して市が独自に出す部分があると思う。市が出せるお金が少ないとせっかくの国や県の補助金を活用できないというところがあるのかなと思う。そうであれば、もう少し市の独自支出を増やしてもらって、国の補助金の割合はわからないが、かつては、二見中・坂本中だったのが、三中・四中のように市街地学校でも未来塾を活用できる。市街地でもできるのなら、市の独自予算を出してもらって、国の補助金を活用できたら、未来塾を市内全部の中学校が活用できるようにするというのは、無理なのか。実際の補助金の割合がどの事業にどの割合かわからないが、国県からの補助金を使えるのであれば、未来塾は小学校では活用できないのか。

村上生涯学習課
長補佐兼社会
教育係長

学校教育課と連携し情報共有を図りながら一緒に事業を行う。小学校でも未来塾を活用できるが、放課後子供教室で補助の申請をすることになる。補助率は、国県合わせて2/3であるが、実際、上限が決まっているので満額はもらえない。地域学校協働活動については、ぜひ、満額をお願いしたいと全国市

長会へ毎年要望し、県にも働きかけている。

田中教育部理事兼
生涯学習課長

メンバーがほぼ同じだということについても、本年度100%を目指して活動していく中でコミュニティスクールというほうにスムーズに取り込んでいきたい。地域学校協働活動のコーディネーターもコミュニティスクールのコーディネーターに位置づけ、お互い連携しながらスムーズに移行していく。熊本版から全国版に移行しつつあるので事業のほうは協力しながら行っていきたい。予算のほうも、市の持ち出しを少し出してでも実施してほしいという要望だと思うので来年度予算確保についてそこも努力していきたい。

水田教育委員

先ほどの補足として、ニーズがないというのは、逆に言うと保護者として必要かどうか聞かれていない。放課後児童クラブに預けない家庭もある。授業の補足的に宿題をするということがありますというように尋ねた場合は、ニーズがないことはないかもしれない。前進する方向に行っていただけであればありがたい。

田中教育部理事兼
生涯学習課長

PR不足はあるかもしれない。要望があった場合に、ボランティアの確保というハードルが高くなるというのがある。

奥村教育委員

コミュニティスクールと地域学校協働活動のメンバーが同じというところで、実際活動する人は、何をすればいいのかというのがある。学校も誰が窓口になっているのか。よく活用という言葉が使われるが、活動する側からすれば、自分たちは物ではないという話もある。これだけ頑張ってもらっているが、最後は人の問題で、どうやって伝えるか、どうやって活動していただくか、歴史が必要だと思う。いいお手本は、氷川町だと思う。10数年かかっておられる。ここ数年力を入れてもらっているこの事業が、地域事業として根づくためにも、支援・応援・アピールはずっと必要なのかなと思う。こんなことをすればいいのだと後継者にバトンタッチできるような、子供たちが喜ぶ、先生たちが少し楽できるという費用対効果のようなものも含めて伝える。以前は自然発生的に地域連携できていたが地域も希薄、学校も忙しくて希薄となりその中で国がお金を使ってでも地域力を活性化しようという事業である。見える見えないの自然の継続が氷川町の地域事業になっていくと思う。ぜひよろしくお願ひしたい。

●図書館管理運営事業

田中教育部理事兼
生涯学習課長

点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員

移動図書館の利用者が減少しているというのは、人口の減少、子供の減少など自然に減っている分は仕方がない。遠隔地といっても、学校を起点にして、その学校の子供はしっかり読めるようにし、学校に移動図書館の車が来るといって、移動と中身が顕著に見えるような体制、今後検討していくとあるので、見直しの中で、少なくなる利用者ではあるが、その少ない利用者が100%活用できるような移動図書館体制が組まれると嬉しい。知らない間に読んだ本、知らない間に触れた自然が子供の財産として大人になっていく。

富田教育委員

図書館をよく利用するが、今の館長になってからアイデアが豊かになった。毎回、いろんなコーナーを設けて、コロナ対応も細やかにされている。また職員が優しく、丁寧になった。よくやっていたらと思う。

田中教育部理事兼
生涯学習課長

今の館長は、非常に頑張っていたが、市民からの評判も良かったが体調を崩されて、9月から新しい館長に交代となる。これまでの実績もあるので、さらに良くなるようにお願いしたいと思う。

松永教育委員

指定管理者制度にして、1期が終わったばかりである。いい評判ばかり出ているが、他に悪かったこととか何かあるか。

村上生涯学習課長
補佐兼社会教育係
長

職場の環境改善が重要かと思う。2期目の指定管理の更新については、そこを重点的に行った。給与のベースアップと賞与の支給など職場環境の改善があったので、今回離職がゼロだったと思う。

田中教育部理事兼
生涯学習課長

悪くなることは余りなかったが、施設が古くなっている。これ以上サービスするのに、冷暖房も更新の時期で、整備にお金をかけることになる。指定管理者のほうは、全国トップクラスの実績を持っている会社なので安心して大丈夫だと思うが、指定管理料も高いので金額に合ったそれなりの管理をお願いしたい。

村上生涯学習課長 補佐兼社会教育係長 毎年アンケート調査を実施し、満足度調査は、98%満足している特に接遇が満足してもらっている。今後も引き続き伸ばしていきたい。

奥村教育委員 八代市の図書館経営について、ボランティアの方が関わっていることがあるか。

村上生涯学習課長 補佐兼社会教育係長 おはなしボランティア3団体がある。年間370回やっているが、昨年度は、30回しかできなかった。今、図書館には来られていない状況である。

北岡教育長 図書の整理にも少しおられたのではないか。

村上生涯学習課長 補佐兼社会教育係長 以前はおられたが、最近はない。

田中教育部理事兼生涯学習課長 1つ問題点としては、図書の持ち帰りが年間絶えず、手続きをせずに持ち帰るということが、年間100万円程度出ている。ICチップを埋めて通過するときブザーが鳴るなどの対策をしないといけない。

北岡教育長 どの図書館でもあるようだ。熊本市の図書館は、バッグを持ち込ませず、入館することになっていると聞いている。

●社会教育施設管理運営事業

田中教育部理事兼生涯学習課長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 特に坂本町の社会教育センター等小さくて遠隔地で、利用者が少ないから、なくしてしまうというだろうが、ここは、もと学校があったところで、学校の統合で、学校がなくなったら地域の灯がなくなるという地域の人にとっては寂しい、厳しい思いがある。せめてかつての公民館的な場所が残るのは、どんなに少なくなっても地域の人が集まる場所になるので、これだけの経費を費やしておられるので、施設、活動面の検討をされて、検討の結果消滅したとまらないようお願いしたい。

田中教育部理事兼 旧学校施設であるため、耐震化も図られていない部分もほと

生涯学習課長 　　んどである。災害でほとんどを避難所としても利用させていただいているので、地域の人と話し合いながら、適切な規模で、集約できるところは集約しながら、残すところは残しながら検討していきたい。坂本地区は、災害公営住宅の建設も考えられている。地形的に場所が少ないところで、社会教育センター等利活用が可能ということであれば、積極的にそちらのほうにも場所の提供を行っていきたいと考えている。

水田教育委員 　　天文台出張イベントのプラネタリウムのドームは人気があって、各学校の保護者が呼びたいと言われている。コロナが収束してからでない無理だろうが、イベントに出張して、施設の宣伝をするといいいのではと思う。

田中教育部理事兼
生涯学習課長 　　一部の小中学校・保育園で出張イベントをやっている。まなびフェスタのときにも出張イベントをやってもらっている。コロナの状況で、施設に行くことができないというがあるので、広報をしながら進めていきたい。

水田教育委員 　　スリーデーマーチなど、たくさんの方が集まるところでやるとすごくいいのではと思った。

松永教育委員 　　仁田尾社会教育センターと二見自然の森は、よく利用させてもらっていたが、最近は五家荘に行っても、ほとんど利用されていない。二見自然の森は、雑草が生い茂っていて、環境かなと思う。こういったところを利用者が少なければ考えていかないと思う。

田中教育部理事兼
生涯学習課長 　　仁田尾社会教育センターも二見自然の森も地元管理委託してあって、特に二見は熱心に草刈りをしていただいている。以前は、青少年体験活動もしていたが、今は市民の憩いの場として、火の取扱いもできないような場に変更し、小学校の遠足や地元の人々のランドゴルフ会場などいわゆる公園のような利用をしてもらっている。以前の教育施設からはちょっと方向転換している。今後は適正な維持管理をしてもらう。

松永教育委員 　　二見自然の森は、地域の方が清掃しているが、マムシが出ると地元の方が言っていた。一般の人が使う場合は、注意書きを立てておくといい。

林田生涯学習課 　　二見自然の森は、先日バーベキューをされているということ

長 補佐兼管理 係長 で注意しに行ったが、非常に道も狭く、スズメバチもいた。スズメバチに関しては、春先に防除をやっているが、マムシについては、注意喚起はしていないので、チラシ、強力な看板で注意喚起したいと思う。

奥村教育委員 生涯学習課に限らず、集約化という言葉が出てきている。これから先、避けて通れないと思うが、どこをどう集約するか、八代らしさ、地域の特性、そういったものを検討、審議、吟味しながら、適宜進めていただくように、デリケートな作業だが、ぜひお願いしたい。

●学校等施設トイレ改修事業

竹下教育施設課長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 今の子供たちは、違和感があって、学校ではトイレに行かずに、家に戻ってからトイレに入るという。交付金を活用しながら、県の平均洋便器率を上回るスピードで進めても10年かかるのか。

竹下教育施設課長 大体、1校改修してもパーセントは上がっていかず、熊本県でも改修をして上がっていくので、5年程度で追い越せたらと思っている。学校によって個数が違うので、大規模校で3校、小規模校でそれより増えるので、10年間である程度全校できればと考えている。

奥村教育委員 安心してトイレに行ける時間のため、どこかで一気にできないか。子供の健康状態で、子供がムズムズしているときに、トイレに行くと、それで全面解消するということがよくある。エアコンが設置され、タブレットがみんなに入って、あとはトイレだと思う。地域との連携事業で高齢の方が学校に来られて、トイレが和式だから家に帰ってからと言われるのを聞いたことがある。地域連携事業にもひびが入るのではないか。見通した平均的な設置事業に合わせて、緊急的な取組みもぜひお願いしたい。

水田教育委員 奥村委員と同じだが、ぜひ進めていただきたい。LGBTQの観点から言っても、できれば増やして、どんな性差があっても安心してトイレが使えるようにしてほしい。学校は、災害時の避難所にもなるので、そういう観点も絡めれば、より進めて

いけるのではないかと思います。

奥村教育委員　　かつて、学校のトイレは臭いがひどかったが、今は、トイレのスリッパの並び方、臭いが各段に違っている。トイレの整備状況は、そのまま子供たちの生活の落ち着き状況に見えそうで、拍車をかけてもらいたい。財源の内訳の中の地方債という部分大きいのが、地方債とは、どういうものか。

竹下教育施設課長　　借金のようなもので、後で返還しないといけない。市がその年に一度に出す必要はなくなる。

中教育部長　　ただ借金するわけではなく、国に申請し、認められる枠で借金をすると、後々、地方交付税という形でかなりの率で国が補填をしてくれるので、通常に借り入れるよりは、負担が軽くなる。

奥村教育委員　　申請するときにもっと膨らませることも可能なのか。

竹下教育施設課長　　上限があり、今回は合併特例債を使っているが、その上限は、95%と決まっている。それを引いた分が一般財源となる。

奥村教育委員　　交付金を活用してと言われたが、それは何か。

竹下教育施設課長　　実際に工事をするときには費用の1/3を国からの補助金としてもらえる。借金でも、八代市が出すお金でもない。補助金を申請して、交付決定があってから工事を進めていく。

奥村教育委員　　どちらにしても自前のお金を持っておいて、補助金も請求するということ。トイレに関しては、子供たちにとっては、早急な保健衛生施設だと思う。

松永教育委員　　学校は、避難所になっているので調査はされていると思う。

富田教育委員　　子供たちは、学校のトイレを使用するときは、精いっぱい我慢してから行くので、失敗することもある。早急に少しずつでもやっていただけたらと思う。

北岡教育長　　子供たちだけでなく、先生たちもそう。水回りの工事は、金額がかかるので、理解を得て予算が獲得できればと思う。

●学校等施設管理事業

竹下教育施設課長 点検・評価票により事業内容等について説明

水田教育委員 先生方の職場環境としても、子供たちが学習するに当たっての精神衛生も兼ね備えていると思う。荒れた学校では、荒れた子供たちが育つと思う。整備点検もだし、環境をきれいにできた方がいいのと思う。学校訪問で老朽化した壁や錆びついているものが見える。お金が必要になることだが、しっかりとやっていただくとありがたい。また、樹木の老朽化で伐採するのはいいが、心の衛生というか緑があったほうがいい。手入れが要らなくて、大きくなならない木や花が植えられるといい。愛でる気持ちがあれば、心が豊かになると思う。切り株だけでは寂しいと思う。

竹下教育施設課長 樹木については、頭を抱えている。以前の校長が植えた木が大きくなって用務員の手に負えないなどある。予算が限られている中で、樹木の管理費用は非常に高い。各学校から依頼があっても、全体ではなく、部分的にやっていく。1つ根を抜くだけでもクレーンなど作業車を使う必要があるので、金額が増える。緑は必要だが、余り育たないものを植えてもらいたい。

水田教育委員 植えるときに気をつけてと言ったほうがいいのか。

奥村教育委員 たくさん木があって名札もきちんとつけてある学校の木が、ここ2、3年で植えられた木ではなく、何十年もかけた木なので、いまさら切り倒せないということもあった。体育館の建替工事で木を切ったり抜いたりすることが必要なところもある。教育施設課のほうで全市全校回って、適切な処理してもらい、基本的には切ってほしくないが、子供たちのために植栽は傷つけられることなく進んでいったらいいなと思う。学校の整備状況で欠かせないのは、用務員さんの力である。学校の職員、特に校長は2、3年で異動するため、その人の見立てで、植えたり抜いたりする。気づくとみんなその木の下に集まっている、守ってくれているようだったという詩や作文を書かれると2、3年しか勤務しない者が切ったり植えたりできないとつくづく思う。全体見渡したところの整備状況を市教委で指導してもらおうと助かる。

北岡教育長 教育施設課が見て回って、伐採をするしないというより、基本的には、学校から伸び過ぎた等の要望があり、対応できる範囲で見に行くなどして、学校と連携しながら適切にやってい

く。虫がつきやすく倒れる木もあるし、生活環境も変わってきて、今までなかったことも起きている。学校によっては、必要だったりする。

水田教育委員 例えば、切り株は、みんなが腰かけられるような憩いの場にするなどの工夫を、学校がやることだろうから、アドバイスしてほしい。

富田教育委員 学校の樹木は、学校長や学校が安全のために巡回して、チェックし、市のほうにお願いするのが一番いいと思う。少ない市の職員の人数で、これだけの数の学校を回るのは大変である。そのような体制をとるほうがいいと思う。

竹下教育施設課長 樹木は学校から依頼がある。桜を植えれば、毛虫が発生する。枝が茂っている、毛虫が発生したからどうにかならないかと学校側が管理をされていて、相談がある。それについて、現場を見に行き、協議をしながら進めていくという形になっている。学校側と密に連携をしながら進めていく。

●学校等非構造部材耐震化事業

竹下教育施設課長 点検・評価票により事業内容等について説明

松永教育委員 小中学校体育館のバスケットゴールは全部取り替えを終えているのか。

竹下教育施設課長 バスケットのゴールは、天井材をするときチェックしてある。

五十嵐教育施設課長補佐兼建築係長 全て取り替えると高額であるため、そのままの状況で、落下してもほかの部材で持つような形に補強している。全学校で点検し、補強を進めている。

●学校等施設整備事業

竹下教育施設課長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 かなり費用がかかっているが、老朽化が原因なのか。また、千丁中の渡り廊下棟屋上防水工事がかなり高額になっているが、どのような工事だったのか。

竹下教育施設課長 千丁中については、工事費用が高額だった学校として代表的に上げていて、費用は約500万円だった。「他」は他の中学校分を含めた金額で、修繕が93件、工事は8件であった。

奥村教育委員 教育委員会の内部に営繕・修繕をお願いできる課があつて、すぐ来てくれるから助かると校長先生から聞くことがある。そういう微細な修繕を含めて、学校は古くなっている。無意識に1日過ごしているところを安全安心で、なおかつ良い環境になれば、子供たちはそれだけでいい雰囲気ですべて育っていくのかと思う。このお金のかかりようには大変だと思った。

竹下教育施設課長 老朽化が原因かというところだが、老朽化が原因の部分が大い。建物は40年、50年持つが、鉄筋が膨らむと壁がはがれる。照明器具等の機械は、15年から20年で交換していくのが現実的な話だが、壊れないと交換しないということになる。老朽化したところをうまく予算の中で進めていくことになる。

奥村教育委員 以前、雨漏りの修繕をお願いしたときに、校舎の建て替えを待つようにと言われた。その後、雨漏り工事をしてもらい、嬉しかった。建物が人を作るというので、一つ一つ新しい校舎になっていくのを期待している。

水田教育委員 学校訪問で、壁紙がはがれているのが気になるし、階段のゴム部分がはがれたり、短くなったりしているなどがかなり多い。先生方が、見つけて修理される必要があるのだろうがなかなか。

奥村教育委員 学校はわかっているが慣れてしまっている。学校訪問で教育施設課も加わって、チェックしていただきたい。

中教育部長 小さな不具合は、先生たちが学校で毎月点検し、集約されて、教育委員会に修繕依頼をされる。軽微なものは、学校が配分予算で修理していくなどの選択をしていく。不具合を言っても何も処理されない、電気が点かないのがそのままになっているなどそういうことを確実に教育委員会まで話をさせていただくと、見に行つて対応することになる。

水田教育委員 中学生は、技術の時間を利用して壁を塗る、修理をするなど、やっていくといいのでは。自分たちの学校をきれいにする取り

組みもできる。

奥村教育委員 担任の立場から言えば、自分の教室の中の不具合は、すぐに言いたくなるが、廊下通路はあまり気にならない。その辺を注意する先生が来て、改善されるということもある。学校はしのいでいるので、施設管理として、学校訪問のときに教育施設課も来て、外の目でチェックしてみてもらおう。そういう廊下などに限って事故やケガが発生しやすい。

富田教育委員 荒れていた学校で、廊下や壁に落書きや傷がたくさんあった。必要だと言ったらすぐペンキ代を出してもらったことが嬉しかった。壁を全部塗り替えることができた。

竹下教育施設課長 壁のペンキや壁紙など簡易なものは学校にお願いする。依頼があって、見に行ってみて、用務員さんで対応できないかなど学校側との協議となる。階段のゴムについては、令和2年に太田郷小を替えている。太田郷小から連絡があり、ゴムのつける型が古く、全体的に替えないといけなくなった。学校側と協議しながら進めている。

●小中一貫・連携教育推進事業

高嶋学校教育課長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 今、中1の不登校が増加傾向であることを残念に思った。中1に限らず、ここ3カ年の実際の人数を小中学校別に分かればお尋ねしたい。中1でこれだけ増えているなら、全体でも増えているのか。八代市に限らず全県的になのか。また、不登校の解消には、学力向上とつなぎ合える学級集団作りを大切にしたい。そのため、自分の精神状態のありようと人とのつながりを見るQUテストだったと思う。QUテストの実施状況と活用状況はどうなっているか。

高嶋学校教育課長 QUテストの活用状況については、中1は全部行っている。何年も行ってきて、見方も慣れてきている。見えてなかった子供たちへ手だてをしている。不登校の人数は、6月末時点で小学校が16人、中学校が91人。他郡市の状況を調べたということはないが、県下でも増えてきているという情報は聞いている。

- 奥村教育委員 不登校の子供たちの居場所はどこになるのか。
- 高嶋学校教育課長 完全不登校もいるし、30日を超えると不登校となるため、居場所は主に家庭となっている。くま川教室は、完全に行けなくなった子供たちで、ごく一部である。
- 北岡教育長 くま川教室に来ている子供は、保護者の理解があり、困り感があつて、相談に来ていると認識している。
- 富田教育委員 いろいろである。他人から聞いて行ってみようとか、担任に話せないから来たなど、それぞれ事情は異なる。
- 奥村教育委員 その子の状況は、QUテストでよいが、集団の特性になるとハイパーQUテストで、この学級はこういう傾向にあるというのでもみることができる。QUテストの実施は中1だけだが、校内研修などでどのような活用がされているのか。
- 瀧川学校教育課指導主事 1学期テストを実施して、結果が出たら業者から学校へ説明に行ってもらおう。それを踏まえて2学期にどう取り組むか各学校から提出してもらおう。第2回目のテストの予算がつかなくなってからは、学校によっては、独自で入力して同じよう結果が得られるようなもので比較されたり、主観的に変化を報告されたりして、学期末に最後どうだったか報告されている。
- 奥村教育委員 それがないと、学校によってはやりっ放しの傾向になる。
- 高嶋学校教育課長 不登校の生徒数は、小中合わせて、H30年度が165人、H31年度239人。令和2年度が259人だった。やはりコロナというのが、響いているのかなと思う。
- 水田教育委員 我が家のことに関して切り取った言い方になるが、中学生の感覚は、陰気なキャラか陽気なキャラかと自分たちを二つに分けて決めつけている感じである。陽キャは、勉強ができ、運動を頑張っている、学校で活躍できる子で、陰キャは、いつもおとなしく静かで、ほどほどに陽キャの子から目立たないようにしているような子で、その中に休んでいる子が多いかなと思う。みんなを盛り上げるために先生方が「夢を追い、頑張るぞ」というのは、まぶしくて、自分はまずそうなれないし、光が当たっていないから言っても見てもらえない、変なことを言われて嫌な気分になるのなら、学校を休もうとなる。楽しくやって

いる子供と、そうでもない子供の境目が大きくなっている。今は、学校に無理に行かなくてもいいとの考え方もあり、学校のせいだけとも言えない。家庭の考え方というのもある。学校に行かなくなる以前にそういうことはないよ、ということをお教え込んで、学校にはみんなが必要だと教えていくしかない。陰に潜んでいる子たちが、学校に行かない方向に走るのではという危惧がある。全てではないが、こういう傾向もあるという意見である。

奥村教育委員 陰キャ陽キャというレッテルを貼るとなると、そうでもなくても、自分をその言葉に限定してしまう。聞いてびっくりしている。今、流行っているのか。

高嶋学校教育課長 子供たちは言っている。陰キャが悪いということではない。

奥村教育委員 明るい子供たちも努力してそういう毎を生み出している。その辺りをつないでいくのが学校だと思う。何のためにQ Uテストをするのか。学校で勉強させるだけでなく、子供たち同士をつなぐ集団作りがマッチするところが授業、学級だと思う。そのあたりの機能が発揮できるように先生たちを応援しないといけない。不登校対策も、授業づくりもしないといけない、学習指導要領の主旨は、確かな学力の定着ではなく習得である。習得は、自分のものにして、何かに発揮して使っていくということ。習得の部分はどうやっていくかということをもう1回考え直して、学級集団の中の一人一人に火を灯して考え直さないと、この言葉は衝撃だった。

水田教育委員 一人一人に声をかける先生のクラスとそうじゃないクラスは違うんじゃないかと思う。去年の学校訪問で、よかったと思ったクラスは、不登校がなくなったクラスだった。クラスの雰囲気が良いと、不登校の子供も学校に来始めている。一人一人に光を当ててあげたら、随分違う。

奥村教育委員 先生一人一人を勇気づけて、その作業がないと、子供を預かって、育てるのは先生なので。

富田教育委員 不登校の原因を学校で探してもらおう。印象に残っているのは、勉強はしなくても生きていけるという考えの保護者がいたが、その親の子は高校でもやっぱり行けない状況にある。力の差もあるが、親のしっかりした地盤があれば、子供はそんなに

ならないと思う。子供には基礎学力をきちんとつけないといけないという基本的な考えを持ってもらって、それが親に伝わらなくてはならない。何でも先生がやっている。先生も悩んでいることを親に伝えて、保護者の意見をどんどんもらって、学級を変えていくとか、自分を変えていくなどしなければ難しいと思う。みんな努力している。

高嶋学校教育課長 学校だけで解決できる問題ではない。どういう手を打っていくかということである。

● I C T授業サポート事業

高嶋学校教育課長 点検・評価票により事業内容等について説明

松永教育委員 I C T授業サポーターは、前回の総合教育会議で、市長からも増やすようにと言われている。活用について計画を立てて配置し、もっと増やしてもらっていいと思う。

高嶋学校教育課長 市長からそのような言葉をもらっているので強く要望していきたいと思う。

水田教育委員 賛成である。先生の負担ができるだけ軽くなるようにと思う。

奥村教育委員 教師用のタブレットの今後の見通しははどのようになっているか。また、今回のG I G Aスクール構想は、子供ではなく先生だと思う。いかに使い勝手ができて、しかもその基盤には教材研究がないと、指導内容がソフトに左右されるようになってはならない。I C Tを活用する前に、既にある教材研究力にタブレットを活用して、授業における子供の主体的で対話的な深い学びを進化させるということだと思う。先生たちに深い教材研究が基盤にあるかという支援についてお尋ねしたい。

高嶋学校教育課長 教育政策課のことになるが、教師用のタブレットは補正予算で取り入れることになっている。考え方としては、タブレットは、鉛筆などと同じ道具なので、これに振り回されるのではなく、しっかりとした教材研究がないと、授業は成り立たないというのは当たり前の話で、教材研究を行って活用していくよう指導している。

中教育部長 タブレットの導入は、県の補助金を活用し、市の持ち出しで、10月開催の9月議会に提案しようと準備を進めている。

●コミュニティスクール推進事業

高嶋学校教育課長 点検・評価票により事業内容等について説明

奥村教育委員 国版コミュニティスクール移行推進モデル校の第二中の主な成果と課題について教えてほしい。また、今後の見通し、何校か移行されていると思うが順調に行きそうかどうか、教えてもらいたい。

高嶋学校教育課長 現在13の学校・園がコミュニティスクールに移行している。

加賀学校教育課審議員 昨年度末、第二中からの報告をもらい、各校へ情報提供している。成果としては、①学校の課題を共有して委員のみんなで解決のための熟議と協働が可能になった。②実働できる人、学校教育に関心がある人、自分の意見を言える人を委員に選ぶとよい。③管理職だけが動くのではなく、教職員の疑問を明確にして取り組むことが重要である。教職員を含めた研修を2回行い、地域も含めて学校全体で取り組むことを明確になった。課題としては、活動を企画し、活動に責任を持って参画してくれる方をいかに選定するかと、委員になった人にこれまでの学校評議員、学校協議会委員に求められる役割、学校応援団の違いを理解してもらおうのが難しかったということだった。

奥村教育委員 二中校区は、広いので、幅広い人材がおられるだろう。全ての地域でそうとは限らない。成果のところ、どんな人を選定するかということがあったが、学校としてもそういう人を意識して、そうなってもらえるようにお互いに勉強していかないとどこの校区でもというのは無理である。学校だけでなく地域も経験知を積み重ねていく。上手に活動しないからダメではなく、十何年の取組を重ねて歴史を作っていくことが大事である。今までと次元が違うので、理解をしてもらう努力をいろんな方面から、まずは学校からだろうが、教育委員会も手伝いをして、どこがまずいのか、どう支援したらやっつけられるのか、分析しながら地域の応援をしてもらえたらと思う。

●学校教材充実事業

高嶋学校教育課長 点検・評価票により事業内容等について説明

水田教育委員 デジタル教科書導入に際して、紙の教科書は減らしていけるのか。ランドセルやバッグの中が重い状態だと思う。軽くしていけるようになるのか。

高嶋学校教育課長 教師用のデジタル教科書なので、ランドセルの重さについては、置いていていいものは学校に置かせてもらえるようにと別で指導している。

瀧川学校教育課指導主事 教科書が変わるときに、文科省としては、生徒用のものを入れたいと実証事業として希望をとり、各学校1教科何かしらの学年に入っているのが複数ある。活用など使い勝手を集約して、今度の教科書改訂のときにはデジタル化にしていこうという動きはあっている。

北岡教育長 教育関係者の中にも賛否がある。紙じゃないと頭に入っていないのではないかという人と、今の時代だからデジタルを推進するべきだという人と。時代の移りは、あるのかなという気がする。

奥村教育委員 紙をめくるといふ所作と、めくるときに鉛筆を握って書くといふ、新しい人はデジタル機器でそれができるだろうが、デジタルと紙を併用するときはどうしたらいいか工夫をしてほしい。米国の大学で学生を二分して、一方はデジタルだけで記録、一方は紙だけで記録を1学期間行い、テストをしてみると、紙のほうが高かったという。なぜかの分析はできていると思う。一気にデジタルがあるから紙は要らないということではなく、本は学校に置いていてもいいから、といっても、デジタルは故障するかもしれないし。この項目は、私がお願いした。従前にいただいた資料の一覧表を見ると、八代の教育課題は、不登校と学力問題と以前から言われているが、従前の資料の一覧表で不登校は、言葉だけでなく対策も含めて記載があったが、学力に特化した項目は一切なかった。本来は力を持っているけれども十分その学ぶ力を発揮できない八代の子供はどうしたらいいか。それを考えたときに、これだけ大きく教育の流れが変わり、一人一台タブレットといううねりの中で、どうすればいいのかと思ったが、去年は余り実施がなかったが、ことしは、学校訪問で指導主事、学校教育課皆さんの指導、授業を見る力。訪問者相談のときに指導要領をめくりながら、今日はこの授業

を見たが、指導要領のここに照らしてお話をしたいと思うという姿を見たときに、これからの今うねっている学力学習教育、授業のうねりの中で活躍するのは、学校訪問及びそれを主体する指導主事たち、今こそ指導主事の出番だと思う。学校訪問というのが少しだけ1つ資料に載せてあった。令和2年度の政策評価よりも、今のうねりを正常に保ち推進していくのは学校訪問等における指導主事の指導以外はないと思うので、子供たちのために、テスト実施があげてあげるが、ぜひ指導主事が勉強に行けるような出張のための旅費と今年度から来年度にかけて、これだけ指導要領が変わるから、こんな勉強をしておかないといけないという算定基準を設けて、教科ごとに一人一回が無理なら、半数ずつでも今こそ勉強して、その指導を各学校においては、指導主事が学校訪問で言われたこの言葉は、日頃、校長が言っている指導要領のここに匹敵するというような有機的なつながりを持って一人一人の担任の先生に入行ってほしい。情報過多の中で一人一人の先生はどこを見て勉強して日々の授業に生かすかと思ったときに、いい悪いは別として、学習指導要領から切り離されないで、いかにそれと繋がっている話が聞けたか、あるいは、それを凌駕するような実践を提供してもらえたかで先生たちの安心感満足感は全然違う。そういう意味で、学校訪問は4番目に書いてあるが、1番目である。一番大きな柱で、今年度、来年度に向けて中心的にしないと、何十年と言われて続けている学力向上と不登校を八代らしさをもって改善していくことが期待されている。そうできるためには、多少難しい状況が加わっているなら、それを打破する力を指導主事に、そこから各学校の一人一人の先生たちに提供いただけたらと思い、この項目をお願いした。

寺本学校教育課指導主事兼指導係長

授業改善ステップワンを中心に指導の方向・視点を絞った上で指導助言を行っている。まだ、力不足のところもあるので、力をつけていっぱい勉強して、学校に還元し、八代の子供たちのために頑張っていきたいと思う。

5. 会議録署名委員の指名

奥村委員・水田委員

6. 閉会

(午後3時25分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

記録者
